

公益社団法人化学工学会
粒子・流体プロセス部会 2021 年度第 1 回幹事会
議事録

日時：2021 年 9月22日（水）12:00-13:00

場所：第 52 回秋季大会オンライン会議室 ZE

出席者：桑木，寺坂，仁志，谷口，酒井，立元，木俣，三角，今中，山田，押谷，
藤本，伊奈，野田
（以上 14 名，敬称略）

オブザーバー：林(事務局)

1. 前回幹事会議事録の確認（資料 1）

前回幹事会の議事録内容を確認し、内容を承認した。

2. 部会長会議報告（資料 2）

2020 年度第 2 回部会 CT・部会長合同会議における議論についての報告がなされた。
主な内容としては、化学工学論文集英文誌のオープンアクセス化と会計ソフトについて。

3. 年会の国際シンポジウム(ICChES2022)でのセッション企画について（資料 3）

化学工学会の年会（3 月開催）と同時開催の国際シンポジウム(ICChES)では、毎年アジア国際賞受賞者の受賞講演を交えたセッションを、分野の近い部会で企画されている。今年度は受賞者が 4 名おり、そのうちの一人である Siyoung Choi 准教授(KAIST)の研究分野が 2 つの部会、粒子・流体プロセス部会と材料・界面部会にまたがっているとのことで、両部会に依頼が来ており、部会として受け入れるかどうか審議した。材料・界面部会と合同で引き受けることとし、詳細は部会長に一任することとなった。

4. 今年度の監事について（資料 4）

今期(2020-2021 年度)の監事の一人である山本一己氏（綜研化学株式会社）が今年度の監事を辞退したいと申し出があり、新たな監事として羽多野重信氏（株式会社ナノシーズ）の提案が部会長よりなされた。審議の結果、了承された。

5. 部会名簿整備と 2021 年度予算配分について（現況報告）（資料 5）

事務局より、2021 年度分科会配額についての説明および振込完了報告があった。
2020 年度第二回幹事会で、事務負担金として分科会の個別事業の収益の 10%をプールして部会会計に繰り込むプール金を無くすことが決められた。その後、化学工学会本部に確認したところ、最近数年は、化学工学会が部会収益の 10%の徴収を行っていなかったが、今年度から復活することが判明した。そのため、このプール金を無くすことは

撤回された。なお、数年間徴収していなくても問題ないような予算であることから、必要性があるのかという意見が出され、部会長会議で部会長が確認することとなった。

6. 2021 年度部会セミナー実施内容および準備内容の確認（資料 6）

三角部会セミナー担当幹事より、部会セミナーについての内容説明・確認があった。例年通り、年会の初日(2022 年 3 月 16 日)の午後に行う。年会のオンライン／オンサイトは現時点で決定していないため、部会セミナーの実施形態も年会の実施形態の決定後に決める。部会賞の受賞講演を主として構成し、受賞数が少ないようであれば、招待講演を選定しお願いする予定である。部会賞の進捗状況が確認され、仁志賞担当副部会長から 11 月頃までには決定できるとの見通しが報告された。

7. ニュースレター進捗状況

立元担当幹事より、ニュースレターの進捗状況について報告があった。

8. 部会賞進捗状況の報告

各部会賞担当より、進捗状況についての報告があった。

・シンポジウム賞（資料 7）

木俣幹事から受賞者数の案が提示された。また、プレゼンテーション賞の既受賞者の対応について、2018 年度第二回幹事会で既受賞者が再度候補になった場合には受賞歴を考慮した採点をするようになっており、それに基づいて審査を行う予定であることが報告された。幹事のひとりから「『受賞歴を考慮した採点』について事前に周知されていないが、公平性の観点から問題にならないのか?」、「事前に知らせている選出方法と異なるのであれば、ホームページにその旨を示した方がいいのではないか」というコメントがあった。このコメントに対して、シンポジウム賞担当幹事より「既受賞者の再受賞を妨げるものではない。」と回答された。賞取り纏め幹事より「規定の改定が必要になる可能性もある。」との回答がなされた。

受賞歴の考慮の見直しは今後行うこととした。

・動画賞

現在募集中。

・技術賞

現在募集中。

・フロンティア賞

現在募集中。

9. 「第 9 回若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会」（資料 8）

伊奈企画幹事から、第9回若手研究者・技術者を対象とした工場見学および交流会の準備状況が報告された。コロナ禍のため、オンラインにより2022年1月に実施予定である。慶応義塾大学・藤岡沙都子氏の基調講演とオンライン工場見学・講演会、講演者別フリーディスカッションを計画していることが報告された。また、予算案も示され、オンラインでの実施のため、例年よりも少ない予算となることが報告された。

10. その他

なし

以上